

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370200984		
法人名	社会福祉法人ま心苑会		
事業所名	グループホームま心		
所在地	熊本県八代市敷川内町2243番地2		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成30年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム理念【安心・ま心・信頼】をスタッフ皆で共有しあい、ご利用者やご家族に安心して過して頂けるよう努めています。季節に合わせて外出や外食を取り組み笑顔溢れる表情で過ごされています。運営推進会議も年6回開催し生き活きと活動ある会議の場を過ごしています。毎日(天然温泉)の入浴サービスも喜ばれています。介護職不足の中、利用者へのケアのあり方について八代ブロック会研修会を1回/月開催し積極的に勉強会を行い他のホームの職員との交流も深め管理者研修や行政も交えての意見交換会を開催しています。年々ご利用者の身体機能の低下も著しくなっていますがご家族のご協力の下成り立っています。明るいスタッフと笑顔が多く見られ暖かいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天然温泉付がついた『グループホームま心』は、平成15年の開設以来、職員の明るいサポートで心のこもったケアと、季節毎に菜園でほこる野菜を活用した食事や、温熱効果でゆっくり楽しめる温泉浴など、入居者が楽しみをもって過ごせる時間が提供されている。また、ベッドマットの下など普段手の届かぬ場所の掃除に家族の協力が得られるなど、信頼関係が伝わってくる。ややもすると形骸化しかねない運営推進会議も、毎回全入居者と地域代表者や行政など20数名の参加者によって開催されており、現状報告後はミニ運動会や避難訓練、手芸講座など職員の工夫やアイデアにより、和気あいとした中でサービスの向上に活かしていることは大きな特徴と思われる。縁あって集われた入居者や家族にこれからも【安心・ま心・信頼】を届けるホームとして活躍いただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、ま心理念「安心、ま心、信頼」を唱和し日々念頭に置き利用者へ接している。	「安心、ま心、信頼」という簡潔でわかりやすいグループホーム独自の理念を、職員合意のもと継続している。また、申し送り時の朝礼で唱和し確認することにより、理念を踏まえたケアの実践に繋げている。理念は、ホーム内に掲示し、関係者への周知に努めている。	「安心、ま心、信頼」の理念の項目の一つ一つについて、具体的なケアの場面に沿って、その意義について職員間で話し合われ、振り返られる機会を持たれることも大切だと思われる。取り組みに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校運動会へ利用者の方と応援に出かけたり地域の方々や子供達の慰問等の交流がある。	近くにあった小学校分校が合併のため廃校になったが、引き続き、本校の秋の運動会に入居者が応援に出かけたり、また、小学2年生や地元の方々がホームを訪問するなど交流が図られている。また、夏まつりへの招待や地域の掃除に家族会が参加協力するなど法人全体で、地域との交流や貢献に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度行う運営推進会議へ地域の方を招待し認知症の方の理解と共に意見交換会を開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加者すべての方の意見を伺い次回の運営推進会議のテーマにしたり又、その後の意見も伺う様にしている。	定期的開催される運営推進会議は、入居者、家族、老人会会長等の役員、市役所、ホーム職員などの参加により25名前後の多くの参加者によって開催されている。会議は、ホームの近況報告等の後、参加型の活動(ミニ運動会、避難訓練、カラオケ大会等)が行われ、その後も意見交換・茶話会を含め、活発に行われていることが会議録に表されている。今年度は、地域包括支援センター長や他のグループホーム、小規模多機能事業所からの見学、参加があっている。	今後は運営推進会議に消防団からの参加協力を得ることで、連携や安全管理の強化に繋がっていくと思われる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方も運営推進会議に参加頂いている。その際に地域の取り組みを伺ったり、質問したりしケアのサービス向上に努めている。	市は、運営推進会議にメンバーとして毎回出席している。会議は、フロアーであり、入居者や家族の様子、ホームの実情等も把握するとともに行政情報を提供している。また、市とは、八代グループホームブロック会で質疑応答や意見交換ができています。更に、必要な案件については直接出向き、意見交換の機会を持つなど協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容は職員間で共有し理解に取り組んでいる。グループホームの勉強会へ参加し全ての職員へ資料配布し内容を共有している。	拘束や虐待については、グループホームブロック会の研修会に参加する他、ホーム内でも拘束に関する報道があった際は、話題にあげ更に共有の機会をもっている。スピーチロック等の言葉かけの改善については、管理者は気になることがあれば指導を行いながら、注意喚起を図ることとしている。夜間帯の転倒防止のための人感センサー、介護ロボセンサーについては、家族への説明と了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に『気付き』に注意し利用者の方を見守っている。勉強会でも必ず議題に上がる事が多く不参加の職員へも必ず資料・研修報告書を配布している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	八代GHブロック会で年に1回は権利擁護に関する研修会を開催。管理者・職員も学ぶ姿勢が積極的である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項・契約書・同意書・加算等の説明や秘密保持についても同様の説明を行い署名・捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会や運営推進会議で意見交換をしている。面会時にも管理者や職員へ要望等も受けている。モニタリングやサービス担当者会議でも意見等は聞かれるが意見箱への書き込みはされていない。	運営推進会議に、入居者や家族も出席し、意見・要望を管理者や職員並びに外部者に表せる機会となっている。家族会では、年2回、ホーム内外の清掃活動をしており、春の家族会総会でも、意見交換が行われている。また、家族には、面会時にも要望等を聞いており、入居者からの日々の会話やケアの中で発せられる買い物等の要望には、職員間で話し合い実現に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営委員会や施設・在宅部長の配置も出来き意見交換や相談に応じる事もある。また、職員ミーティング時職員との意見交換や提案等も管理者が現場に入り把握する事でアイデアにも反映されている。	管理者自身も、昼夜の業務に入り、現場の把握と職員との意思疎通を図っており、出された意見や提案は法人にも報告を行いサービスの向上に繋げている。これまで、車いすの利用のみでは、浮腫になることから、リクライニングチェアの提案があり、購入に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各、職員の能力向上・人事考課の調査もあり日頃の業務・勤務対応等把握し勤務時間外の手当ても考慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部を含め職員は定期的に参加し研修会に積極的に参加し報告を行っている。スキルアップも目標に各資格への意欲も伺える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代GHブロック会で各他の同業者との研修会や交流会に参加し各事業所との交流を深め問題点等の相談も出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の希望・要望を聞き出来る限り本人に寄り添うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が家族と話をしどのようにして欲しいか本人へどのように生活をして欲しいかやりたい事を聞いている。面会時やサービス担当者会議時家族から随時相談受ける事が多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員や利用者・家族からの情報収集を行い本人の必要性がある場合家族へ相談し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を出来るだけ活用しリハビリ、リズム体操を行っている。又外出や買い物等へ出かけ職員と一緒に畑作業のお手伝いもされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や運営推進会議・家族会清掃活動等は家族の協力頂いている。毎月、利用者への近況報告とGH便り2か月に1回を発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ・レクリエーション・外出・外食支援時懐かしい思い出話を語られたりされている。家族の協力を得ながら行き付けの理容店や親戚(実家)へ出かけられている。	入居者は家族の協力を得て法事への帰省や馴染みの美容室へ出かけられている。また、得意とされていた野菜作りなど、これまでの生活が継続できるようにしている。日々の生活の中でも特産の竹箸の使用やお茶の提供など慣れ親しんだものを準備している。入居者・家族、職員の信頼関係も深く、サービスが終了した後も外出時に家族が気軽に声をかけられたり、ホームを訪れられるなど、馴染みの関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝い、レクリエーション・外出・外食等も皆さんと一緒に参加され昔の思い出話し等をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族も偶然外でお会いしても声かけて下さり、近くまで来たとホームへ立ち寄り懐かしい思い出話もする事も時々出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や日常生活の中で言葉や気づきを各担当者からADL調査/長谷川式等のモニタリグ等で情報提供も把握するよう努めている。	入居者の一人ひとりの思いや希望は、日々の関わりの中で把握するように努めている。例えば、難聴の方には、聞きやすい側に寄り添って、トーンも考慮しながら声掛けするなど、工夫しながら意思疎通を図っている。管理者は、夜勤帯の入居者の状況も把握しており、家族からの情報も得ながら、本人本位になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所直前での情報収集もしているが入所後の新たな発見が多く職員と意見交換を開催しケアの見直しも共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定し体調に変化がないか詳細な申し送りを記録に残し家族へ様子観察等も連絡する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所されたばかりの利用者は1～2か月で見直しを行い新たなニーズへの対応や家族へ協力も得ながら行っている。	入居者や家族の意向等は、日々の関わりの中で把握してプランに反映するようにしている。新しく入居される方は、アセスメントを行い、1～2ヶ月でプランの見直しをしている。プランの策定に当たっては、担当制をとっており、ADL等状況調査や長谷川式調査結果等のモニタリングを踏まえ、短期目標を含めて、3～6ヶ月毎にプランの見直しを行っている。サービス担当者会議には、家族も出席できるよう日程の調整を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録は個人記録で過ごされた様子を把握しやすく支援経過記録にまとめている。各担当者がADL調査へと記録し職員間の情報共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調に合わせ家族へ病院受診等を依頼し協力を得ている。利用者の急変時等には職員が付き添って行く事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で楽しく暮らせるように2か月ごとに理容店より散髪を受けられたり利用者の行き付けの理容室へ家族と行かれている。病院受診や運営推進会議での消防訓練・ヤクルト事業所からの講習も開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力の下、かかりつけ医へ定期的に受診されている。協力医(内科・歯科)受診でも必要に応じ往診依頼調整等も出来ている。	家族の協力のもとかかりつけ医の受診が行われているが、受診対応が困難になった場合、嘱託医による往診に変更される場合もある。歯科については往診も行われ、職員は3食後の歯磨きやスポンジ、舌ブラシの使用など個々に応じた口腔ケアに努めている。職員は日々のバイタルチェックや食事・排泄など日常のケアの中で健康管理に取り組んでおり、家族とも状況を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師は無く母体(特養)ホームの看護師へ相談や処置等も依頼する事もある。状況に応じ救急搬送を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には本人の状態や家族の意向・主治医との連携を取り管理者・ケアマネと相談を行っている。入院中も定期的な面会や家族とのコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う対応等や入所時に説明しているがホーム・施設運営の方針も踏まえ家族の希望を伺いながら方向性を検討している。	契約時に退去の基準として2週間の入院や、現在の体制では看取り支援は出来ない事を伝えている。これまでホームで12年間過ごされ103歳の方のギリギリまで支援し、その後医療機関で最期を迎えられた事例がある。居室での生活が中心になられても、皆と食事をする機会を持ち、決して寂しい思いをさせず、ホームの一員である事を感じてもらえるよう全職員がま心をもってケアにあたっている。	今後も日頃の関りを大切に、ご縁のあった入居者に最良の時間を提供いたしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には管理者へ報告し職員間での手順等も話し合いし実践されている。緊急連絡網で職員への連絡及び調整が付くよう配置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害(大雨・洪水)に関して併設合同で年に2回開催しホーム独自でも運営推進会議時に訓練が出来た。今後も地域の方々の協力が必要不可欠である。	年2回、法人全体で風水害に関する訓練やホーム単独で消防署・家族・運営推進会議メンバーの参加協力のもと火災訓練(消火訓練とDVD視聴)を実施している。職員は書面では理解していても、実際の訓練では不手際が見られた点が反省として上がっており、次回に活かすことが共有されている。加湿器は使用前の水の補充・点検など安全管理に努めている。	地元の消防団との連携の必要性をあげており、取組に期待したい。火災については火を出さないことが一番であり、今後も職員の意識づけに繋がるようなチェックシートの活用なども有効と思われる。備蓄については本体施設で管理されている分に関しては、一覧表などにして確認されることが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉使いや対応を常に考え利用者と接するよう努めたい。	入居者の呼称は苗字にさん付けとしているが、呼ばれ慣れている下の名など個々に応じている。同性介助については入居者の希望があれば対応している。職員の守秘義務については、研修などで周知徹底されている。身だしなみやおしゃれについても配慮しており、男性入居者の髭剃りや、ハンドマッサージ・フェイシャルエステなども好評だったようである。	居室へ入る際はその方の部屋として、在室の有無に関わらず、ノックの徹底が必要と思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者と寄り添い話を聞いていると自然と自分の思いや希望を離されている。表情などから思いが汲み取れる場面もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を見ながら天候が良い時にはドライブや散歩・買い物・外出支援を計画している。室内ではレクレーション・リズム体操・カラオケ・TV鑑賞等をされ過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に洗面し整容等にヘアトリートメント(ミスト)使用し綺麗に整髪し目やに等もハウ酸綿花で拭き取り洋服もその方のセンスに合わせ準備等も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	常食以外で咀嚼・嚥下状態に応じ調理の工夫をしている。利用者の好みを聞き色合いの工夫もしている。食事後カウンターへ職員と一緒にコップやお碗の片付け、お盆拭き、テーブル拭き等もお手伝いされている。	献立は職員が入居者の希望や季節感を取り入れながら作成している。昼を中心に専任者が調理しているが、それぞれの職員も得意分野を活かし美味しい食事の提供に努めている。食材は地域スーパーやホーム菜園の野菜を活用しており、大根の葉も炒めたり菜飯にするなど余すことなく美味しく利用している。また、鮮魚店で魚の購入により、刺身もお出しすることができている。入居者が直接調理に関わることは殆どないが、野菜作りやテーブル拭き・下膳などできる事で食への関わりを持ってもらっている。	現在職員は人員配置の面から持参した弁当などを摂っている。入居者の思いを共有するためにも、今後昼食のみ1名でも、検食を兼ねて同じものを食べることができないか検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事献立も同じ料理が重ならないようバランスを考え又、適度な水分補給を行い水分量を記録している。レクレーションや外出後の水分不足にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後口腔内の清潔保持に努めている。夜間、義歯は義歯洗浄剤へ浸けている。介助を要する方へは口腔スポンジで残渣物を取り除くようケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の排泄パターンを把握し便秘傾向の方には本人の緩下剤を使用し歩行リハも促している。トイレ誘導し困難な場合は摘便施行する事もあります。	個々の排泄パターンを共有し、昼夜トイレでの排泄支援に努めている。布パンツやリハビリパンツに尿取りの併用など、その方の状態に応じ適切な排泄用品や組み合わせを検討している。便秘がちな方には、薬のみに頼ることなく、運動や食事、水分補給に努めている。	ホームの排泄支援への取組は家族や運営推進会議などで発信することで、更に安心や関心に繋がっていくと思われる。トイレ内は臭気もなく清潔に管理されており、今後は、排泄用品の保管については、見えにくいかごに入れるなど職員の一工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表へ記入し排便の形状や色・量など職員は申し送り等で把握している。食事でも状態に合わせた水分補給を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	天然温泉であり利用者も喜んで入れ入浴されない方には清拭タオルを提供し皮膚疾患が見られる方には酸性水のかかり湯を提供している。	天然温泉『源泉：ま心の湯』が引かれたホームの入浴は、入居者も楽しみの一つであり週3～4回程入られており、入浴後は水分補給に努めている。入浴の可否はバイタルチェックで見極め、昼食から間を置き14時位から支援している。菖蒲や柚子の季節湯も行っており、特に菖蒲を頭に巻くなど、入居者には馴染み深い慣習も大切にしている。	温泉入浴はホームの特徴の一つと思われる。今後はパンフレットにも紹介されている『ま心温泉の効能』などを、入浴支援時のコミュニケーションに取り入れるなど職員のアイデアで更に楽しい入浴の時間になると思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせ寝具や衣類等も家族の協力を得ている。加湿器や室温計も各居室へ設置。天候の良い時には寝具の天日干しやリネン交換も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は責任者2名で仕分け対応しているが内服が追加等で変化がある場合は申し送りを徹底している。夜勤者が翌日の内服をお薬ポケットへ準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い等も役割分担リズム体操やカラオケ・レクリエーションへの促し。季節に合わせ外出・外食支援等も行っていて生き生きとした表情が伺えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員不足により外出の回数が減少しているが出来るだけ天候の良い時には体調に合わせ外気浴が出来る様ホーム外へ出る事に努めている。	職員配置などにより外出の機会が減少しているが、敷地内の散歩や散策、、庭先ランチやレクリエーションなど身近な外出や外気に触れる機会を持っている。また、いちご狩りや桜・紫陽花・コスモスをはじめ、家族にも協力を呼び掛けた水俣のローズガーデンなど季節の外出や外港見物など地域資源も活用しながら支援に努めている。外出支援の様子は、ホームだよりの中でも紹介されている。	外出支援について、家族の参加協力は難しい現状のようであるが、面会時の散歩など出来る範囲で、引き続き入居者と一緒に戸外に出る機会への働きかけを望みたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来られる利用者はお小遣いを所持されており、コンビニで購入したいと希望の方はポイントカードを所持。お小遣い等は事務所で保管し入出の状況は家族へ確認頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにお住まいのご家族へGH便りをお送りしたり年賀やお手紙は代読しお伝えしている。GH専用の携帯で話される事もあるが聞き取りが上手くいかない場合は職員が代わってお聞きする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内も広い空間であり季節に合わせお花や装飾品冬は畳にこたつを置きゆっくり寛げるスペースを設けている。	採光と風通しを工夫した開放感のあるホーム内は、入居者の身体状況や転倒防止に配慮し、コタツや家具などの配置を検討している。リビングには華美にならない飾りつけを施し、窓から見える菜園の野菜やプランターの花などからも季節感を味わうことができる。個々に応じた声かけは入居者の笑顔を引き出しており、職員自身が大切な環境となっている。	経年と共に物品も増えたり、掲示物などの損傷も出てくることから、今後は定期的な確認や見直しの機会を持つことも必要と思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのこたつやカウンターや玄関の小スペースへ置いた所で数名の会話が見られたり笑顔が見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の空間作りでは本人の使い慣れたタンスやTV・小冷蔵庫・ソファ等を設置している。面会時に家族も衣類整理をお手伝いされる。	入居後の生活が家庭の延長として過ごせるよう、テレビや冷蔵庫・使い慣れたタンスやお気に入りの衣類など例をあげながら持ち込みの品について説明している。また、不足しているものがあれば、請求書発送や面会時などにも近況を報告しながら伝えている。職員は日頃から掃除や換気の徹底に努めているが、ベッドマットの下など、普段手の届かない箇所は家族の協力が得られている。	入居後も家族の協力を得ながら、居室作りが行われている。引き続き一人ひとりの入居者や家族にとっても安心できる環境に努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は広々としたバリアフリーな空間になっておりレクリエーションや運営推進会議でもミニミニ運動会等開催し活動的に支援している。		